

こころ便り

第296号
令和6年11月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二
株式会社 新宮運送グループ
代表/木南 一志
kminami@shingu.co.jp
電話 079-11-751212



新宮運送ホームページ

国の行く末

還暦もずいぶん過ぎて歳を重ねるごとに、将来この国はどうなっていくのだろうと案じる
ことが増えている。そんなことより自分のこ
とを心配しろという声は一旦置いておいて、学
びを得てきた論語の中にも同じような言葉が
あつて、人間は二千五百年たつても変わらない
ということが分かる。だから、そのままいい
というわけではない。

我が国の歴史を繙いていくと、何度も同じこ
とを繰り返しながらも大切なものと変わるべ
きものをしっかりと受け継いできたことが分
かる。実感することができなのが「米」である。
書物もない神話の中に出てくる物語のような
ことが、これだけ便利になった現代でも稲作を
行ない、豊作を願い、お祭りをして、感謝して
いただいている。世界中で日本だけが続けてき
たことは、百二十六代の天皇陛下を例に出すま
でもなく、数えきれないくらいたくさんある。
「修身・齐家・治国・平天下」と教わった。
自分自身をしっかりと磨き上げること、安定
した家をつくることができ、そういう人が増え
ていくことで国が収まる。結果として、平和な
世の中となるのだ。

自分が全ての始まりと考えたなら、政治家の
ことを批判するだけでは意味がない。何を実
行しているか、それも自分のためではなく「公」
という世の中のために、人のためにである。

便利な世の中になったからこそ、原点に立
ち戻って実行する時が来ているのだと私は考
えている。トラックドライバーに「公の役割」
がある。安全運転である。

当たり前だと笑われるかもしれないが、利
益を求める前にやらなくてはならないことな
のだ。営業マンも同じだ。電車の中でも席を
譲るといふ仕事をするのは、若者ではない。サ
ラリーマンこそ、先輩の老人たちに席を譲る。
こんなことが当たり前にできたなら、きつと
立派な国になっていくと思える。

子供たちも、そんな大人を見て、憧れる存在に
なるのだと容易に想像がつく。夢を描ける子供
たちはそうやって育っていくのではないか。
大人たち、しっかりと役立つ人になろう。
私も顔晴ります。

被災地にこころを寄せながら

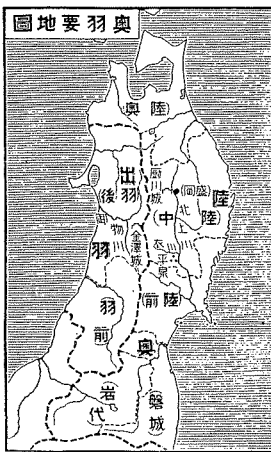
木南 一志 拝

尋常小學校國史 上巻

第十六 源義家②

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、
封入作業をしてお届けさせていただいております。

まことに武士のなまきけといふべし。それより遂に
貞任等を厨川の城に圍みしが、賊は城中に高き櫓を
かまへて、其の上より官軍をねらひうちしかば、官軍甚
だ之になやめり。頼義すなはち兵士に命じ、人家をこぼ
ちて堀をうづめ、又草を蒞りて山の如く積みあげしめ、
みづからは馬より下りて、はるかに京都の皇居を拜し、
又石清水八幡宮に祈をこめ、火を取りて之を投げこみ
しに、大風にはかに吹きおこりて、火はたちまち城中に
もえうつれり。賊軍は思の外のことなれば、上を下へと
あわてさわげるを、頼義すかさず攻めよせて、遂に貞任



等を斬り、宗任等追捕へて、亂全く平ぎたり。世に之を前九年の役といふ。後頼義鎌倉に八幡宮を建てて神恩を謝したり。

義家京都にかへれる後、關白頼通の邸に至りて、戦の物語をしけるに、大江匡房これをたち聞きて、義家は、大將になるべき才を持てども、惜しいかな、いまだ兵法を知らず。といへり。義家の従者怒りて、かくと義家に告げしに、義家は少しも怒らず、もつとものことなり。とて、やがて匡房を師として兵法を學びたり。

さて奥羽の地方にては、さきに清原武則、頼義に従ひて安倍氏の亂を平げ、遂に安倍氏に代りて勢を得たりしが、白河天皇の御代に至りて、其の子孫の間に争起りて、奥羽地方再びみだれたり。

つづく